



株式会社誠和
住所 岐阜市忠節町 4-73
TEL 058-265-9331

「壊す」は 未来を「創る」ために ～誰もがいきいき輝ける未来へ～

「解体・産廃関連の業種にあるマイナスのイメージを払拭して、未来に向けた夢のある仕事にしたいんです。それを通じて、その先にみんながいきいきとやりたいことができる、そんな社会を作りたいなと思っています」こう語るのは、株式会社誠和 代表取締役社長 後藤 和恵 さん。事業を通じて、環境問題などの社会課題解決に貢献し、みんながいきいき働ける世の中を作りたいと、従業員の皆さんと一丸になって奮闘中です。今回はそんな後藤さんの想いや取り組み、将来の夢についてお話を伺いました。



株式会社誠和
代表取締役社長 後藤 和恵さん

く、後藤さんのもとに従業員さんが気兼ねなく相談をしにきたり、お茶を飲みながら色々話しをしたり、社長が従業員さんの前で今後の夢を熱く語ったり。後藤さんはそんな職場の雰囲気向上が、従業員さんの家庭に、そして社会にも広がっていくと考えています。「お母さんがいきいきしている、家族もみんな笑顔になりますよね。会社での仕事を通じて、家族が、社会が明るくなるといいなと思っています」

もうひとつ取り組んでいるのが、業務のDX化です。「色々な内勤業務をシステムで管理できるよう、最初は事務部門向けのソフトを作ろうとしていたが、やはり現場のみんなにも新しいことに触れてほしい、一歩ずつだ仕事をしてほしいと全社向けのシステムを構築することにしました」3年がかりで構築したシステムは、現場からも大好評。現場で職人さんが現場の写真をスマホでとり、日報をスマホで入力し、それを全社員で共有、その情報をもとに営業や総務、経理が仕事を進めていく。一連の仕事の流れをみんなが共有するシステムが完成しました。「ひとりが抜けても仕事が止まら

てしまうんだよということに従業員みんなが共有できるようになり、社内に一体感が生まれました。また、現場の職人がスマホを使ってデータを入力、送信する。今までの解体現場のイメージと違って、かつこいいですよ。仕事にかっこよさって必要だと思っんです。そんな新しい取り組みを現場の職人も前向きにとらえてくれました」そんな思いで取り組んだDX化では思わぬ効果も生まれました。「年配の職人は最初なかなか操作がうまくできなかったんです。ただ、そんな現場の職人に、若手の子が残って教えてくれていて。その姿をみて、すごく嬉しかったのを覚えています」ただ、そんなDX化にはマイナスの面もでてきました。「社員間での会話が減ってしまっただのです。コミュニケーション不足を解消するために、みんなでお菓子を食べられる空間を作ったり、みんな必ず一言はしゃべる会議を開いたり。そんなことをしてコミュニケーションをとっていくようにしました」色々な工夫の元、DX化を通して、情報の共有、従業員の業務での一体感の醸成、現場の職人さんのステップアップや仕事への意欲

解体業のイメージを変えたい

「街なかを歩いているとき、ふときれいな更地に目が行ったんです。それをみて、ここには次に何ができるのかなって」

そのようなことを考えた時、「解体は新しい街や未来ができる最初のステップなんだ」と自社の事業を非常に誇らしく思ったと後藤さんは話されます。

誠和では、「壊す」から「創る」を理念に解体業を通じた地域と環境の未来づくりを目指し、解体する過程においても廃棄物をできる限り削減し環境負荷を低減するなど、未来につながる仕事に取り組んでいます。

「具体的には、自社保有のリサイクル工場を活用し、廃棄物の再資源化に取り組む体制づくりを進め、解体から再資源化・再利用までを一貫して担う『地域循環型モデル』の構築を目指しています。また地域の皆さんに安心、安全を感じてもらえるよう、行政の立入検査項目に基づくチェックシートの運用や全社員での点検体制の強化など、誠実な仕事に努めています」

解体にある『大胆で大雑把な』イメージを、環境課題に取り組む

の向上を図っていききました。

誰もが輝ける未来へ

いま会社で一つの目標にしているのが、「公共事業をこなせる会社になろう」ということ。

近年問題になっている空き家や建物の老朽化は、災害時に被害を増大させてしまう要因にもなりうるため、自分たちの「解体」という仕事は社会課題の解決につながるということを常に意識しながら、公共事業を受けられるような「きちつと真面目にできる会社」として事業を展開しています。

後藤さんには、その先に見据えている大きな夢があります。「みんながいきいきとやりたいことができる、さとやまをつくりたい」という想いです。

「岩利のリサイクルセンターからの『重機と緑豊かな自然がマッチした風景』が大好きなんです。私たちの仕事は環境に直結している仕事だからこそ、この風景を守りたいし、守っていく義務が私たちにはあると思うんです」

実際にリサイクルセンターの近くの土地を借りて、センターの従業員さんと一緒に農業も始めました。「いつも壊す仕事をしている社員

未来志向のイメージに変えたいとの想いの元、様々な取り組みを実行しています。

従業員とともに前へ

未来を見据えたさらなるアクションとして、誠和では『みんな(特に女性)がいきいき働ける職場づくり』にも取り組んでいます。

働き手の多様化という観点においては、高齢者や就労支援の方、女性など様々な人が働いています。特に総務や経理の管理部門は女性のみで構成されており、夏休み期間中には事務所にお子さんを連れてきて仕事をしているなど、子育て世代でも非常に働きやすい職場です。そんな職場の雰囲気は明る

たちにはとても新鮮な体験みたいで、みんな笑顔で取り組んでいます。土に触れるのって気持ちがいいですよ。その笑顔、この風景を見ていると、こんな風景、働き方を守っていききたい、創っていききたいと強く感じるようになりました」先日大きな夢の達成に向けた第一歩として、未来創造企業の認定を受けました。本業である解体事業を通じて社会課題を解決し、その先にある「さとやま」への道が少しずつですが、着実に見えてきました。後藤さんは夢の実現に向けて、解体を通じて地域に未来に向けた「創造」の種をまいていきます。

